

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日 (木)

文理融合リベラルアーツ科目を受講して —受講学生の意見—

生活世界の安全保障3「リスクの社会史」 受講生

五十嵐 麻子 (生活科学部 食物栄養学科1年)

生活科学部食物栄養学科1年の五十嵐麻子です。私がお話しするのは生活世界の安全保障3「リスクの社会史」についてです。キーワードは、ずばり「リスク」だと私は思っています。違っていたら、先生に大変申し訳ないのですが、恐らく合っていると思います。

リスクということで、昨日「ここで何をお話しすればいいんだろう、リスクといってもな」と思っていましたら、日経新聞の一面の下に書籍の広告欄があるのをご存じですか。あそこに、たまたまなのですが『リスクの正体! 賢いリスクとの付き合い方』というのがありまして、私が取っていた授業というのは、歴史からリスクを見るというものだったのですが、現代でも十分注目されている言葉なのだということをととても実感しました。こうやって今、社会についても考えて、そして歴史についても授業で学んで、それを今、こうやってリスクについての考えに生かしているというのは、十分授業の効果が出ているのかなと、自分で自分を褒めてしまいました。

授業の形態は、新井由紀夫先生をトップに、6人の先生方による連続授業の後に、最後にミニシンポジウムとして、それまでの授業の先生方が集まって、討論ではないのですが、ディベートですとか、意見の交換会というのを行いました。

テーマが、先生方によってそれぞれありまして、伝染病や飢饉、情報、火事や地震、旅、それからイスラム社会について、例えば奴隷制や身分社会から見たリスクへの対応ということに対する授業がありました。

授業の主題というのは、これはシラバスに書いてあったことなのですが、各社会、西洋や日本、イスラムの中世、近世史が抱えていたリスクと、それらへの対応から、それぞれの社会の特質を理解するということでした。

そうだったのですが、特に最後のシンポジウムを通して、私たちが最後に得ようとしていたこと、そして学ぼうとしていたことというのは、それぞれの社会だけではなくて、社会全体における普遍的なリスクの在り方、そしてその対応の仕方、とらえ方についての考察だったのではないかと考えています。これは主題がずれていたというのではなくて、先生方が初めに挙げていた、それぞれの社会への特質の理解という、個々の社会から見たもの、つまり点ですね。それぞれの点の理解を最終的につなげて線にまでできたのではないかと。つまり初めに掲げていた目標よりもずっと高いものが出来上がったのではないかと考えています。

例えば単純に歴史を学ぶというのではなくて、情報の持つリスクというのはどういったものかとか、正義のとらえ方、それから最後には、歴史から学ぶということは本当に有意義であるのかということまで話は及びました。これは歴史という教養から現代社会を考える実学につながるのではないかと、リベラルアーツの目的にも十分対応しているのではないかと私は考えています

とても有意義な授業だったと思うのですが、今後の授業に向けて少し提案をするのであれば、意見を出しやすい雰囲気というのになれば、もっといいと思います。講義形式で、先生方は意見を促してくださるのですが、広い教室ですし、人数も多いので、意見を出すというのはとても難しい状態でした。ただ、会議室のように全員の顔が見える形での授業というのも実際難しいと思うので、それはコメントシートなどでの対応で、ある意味十分だったのかなという気がします。

それからもう一つは、取り上げた歴史が、その後についてどうなったのかと。この時代はこういうリスクがありました、こういう対応を取りましたという話の後に、その対応によって、社会は良くなったのかどうかとか、やはり民衆の対応にも限界があって、結局駄目になってしまったとか、そういうその後の歴史というのも少し掘り下げて聞きたいかなという気がしました。歴史をよく知っている詳しい方だったら、それは要らないのかもしれないのですが、私のように歴史はあまり詳しくない、理系だからという逃げ道になってしまうのですが、そういう人間にも、もっと深く考える提言をしていただけたらと思いました。ちょっと欲張りな意見なのですが、そう思いました。

理系の私にも、そんなに難しい知識をどんどん取り入れていくということもなかったもので、とても理解しやすく有意義な授業になったと思います。

文理融合リベラルアーツFD公開シンポジウム 平成 21 年 2 月 12 日 (木)	
生活世界の安全保障 3 リスクの社会史(新井由紀夫先生)	
受講生五十嵐麻子(生活科学部食物栄養学科1年)	
授業形態	6人の教員による連続授業の後、最後にミニシンポジウムを行う
テーマ	・伝染病の危機と社会への影響(新井由紀夫先生) ・合戦や飢饉と民衆(安田次郎先生) ・世論、噂からみる情報伝達とコミュニケーション(安成英樹先生) ・非日常のリスクの管理や対応(神田由梨先生) ・遣唐使から見る旅、情報のリスク(古瀬奈津子先生) ・イスラームの都市社会のリスクへの対応力(三浦徹先生)
(授業の主題)	各社会が抱えていたリスクとそれらへの対処からそれぞれの社会の特質を理解する ↓ 社会における(普遍的な)リスクの在り方、捉え方について考察する
(今後の授業に向けて)	・意見を出しやすい雰囲気 ・取り上げた歴史のその後についても考える